

# NPO法人せいぼ：企業様との取り組み



## 団体の目的

アフリカのマラウイに対する給食支援により、世界の飢餓を無くすことで、世界の将来を担う若い人々の未来を作っていく。

## 協働の目的

1. 特にSDGs Goal 1の「貧困をなくそう」を意識し、社会貢献に繋げていく。
2. アフリカへの給食支援という特徴から、世界の将来への持続可能性への投資に繋げる。
3. 現地スタッフとの連帯の透明性が高いことを特徴として生かし、企業の皆様に対して企業のイメージ戦略にも繋がる情報を見える化し、日本に発信することで、企業が社会に対する影響力を持てるようにしていく。
4. 企業様とともに、※アフリカの将来の人的資本に加え、日本の教育にも関わって頂き、その養成を伴走して頂くことで、サステナブルな人材育成と将来の雇用に繋げる。

※国連World Population Prospectによる。100年後は出生率の約60%がアフリカ起源となる。

## ご提案① 給食代金の直接のご支援

- 年に数回に分け、ご支援を頂いた上で、団体から活動ポートを提供。
- オンラインでの取材を通して、現地スタッフとの動画も撮影可能。
- 弊団体として、貴社をパートナー企業としてご紹介。

※事例①：株式会社テーブルクロス御中

byFood.com利用に伴い、1予約につき10食の給食支援を実施。1食の支援金額は、15円とし1予約につき150円の寄付を行います。



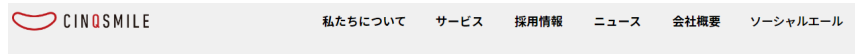
Posted on February 1, 2021 / お知らせ

**SDGs事業「Food for Happiness」新体制のお知らせ ～株式会社テーブルクロスとNPO法人せいぼじゃんぱんが協業し1予約10食の給食支援体制の強化へ～**

この度2021年2月1日（月）、グローバルプラットフォーム「byFood.com」を運営する株式会社テーブルクロス（本社：東京都中央区、最高経営責任者CEO城宝 薫、最高執行責任者COOトソ セルカン）は、当社のSDGs事業「Food for Happiness」を新体制とすることをお知らせします。今後は、マラウイの子どもたちの支援を行うNPO法人聖母（本社：東京都文京区、代表者：山田 真人）と協業し、byFood.com利用に伴い、1予約につき10食の給食支援を実施する方針です。1食の支援金額は、15円とし1予約につき150円の寄付を行います。

## ※事例②:株式会社シンクスマイル御中

社内のエンゲージメントを高めるアプリ、RECOGの中でやりとりされた「感謝」の数に応じて、給食を寄付。



### ■せいぼじやぱんの取り組み

「おなかを減らしている全ての子どもに給食を！」という長期目標を掲げ、学校支援活動に取り組み、2015年より東アフリカのマラウイ共和国で保育園や幼稚園への給食支援を始め、小学校にも給食支援をしています。現在では、約1万6千人の子どもたちへ給食支援をしており、ほかにも生活必需品やサイクロンで被害を受けた建物や教室の再建の支援も行っています。



## ご提案② マラウイ産コーヒーを通してご支援

- 売り上げが寄付となるフェアトレードマラウイ産コーヒーの取り扱い。
- 社内のコーヒーを寄付型とすることで、毎日のマラウイの給食を支えるという日々継続的なSDGsへの取り組みとして、取り上げることができる。
- お中元、御歳暮などのギフトを寄付型とすることで、企業の取引先などへのイメージ戦略となる。
- ワークショップや社内での研修で、寄付型コーヒーを使用頂くことによって、社内研修の一貫としても紹介できる。(風味としてもスペシャリティコーヒーであることを生かし、スタッフがワークショップを開催することもできます)

## ※事例①:株式会社スコープ御中

SDGsを意識したイベントで、マラウイ産コーヒーを利用。スタッフが当日はイベントに訪問し、ワークショップを実施。



## ※事例②: SYNC LOGISTICS INC御中

社内でのコーヒー、御歳暮として利用。社内でのSDGsの研修的な役割として活用。



## ご提案③ 学生との協働を活用した教育事業、会社広報

- 弊団体が探究学習、課外活動を中心に関わりを持つ約30校(2024年2月現在)の授業やイベントを用いて、会社の広報や将来の雇用促進に繋げて頂く。
- 学生のSDGsへの取り組みに対して支援、参加を頂き、教育事業に対する取り組み事例を増やして頂く。
- 大学生を中心に企業アンバサダーとして利用を頂き、弊団体の寄付型プロダクトとの協働とともに、会社のSDGsへの包括的な取り組みの告知にして頂く。



## 弊団体が企業様に提供できるメリット

- マラウイとの直接的提携から、支援効果が見えやすい。
- 1食15円でマラウイの給食が支援でき、インパクトを企業様のご意向で、表しやすい。
- コーヒーを通じた支援で、手軽な形で社内のイベントやギフトを通じて企業活動、SDGsを盛り込める。
- マラウイの将来の人的資本だけではなく、日本の教育に関わることで、将来のグローバル人材に関わることができ、会社の広報にも繋がる。

## ご提案④ マラウイコーヒーパッケージイラスト作成

- 貴社からイラストにしたい企業ロゴやその他デザインを入稿頂く。
- 弊団体がラベルシールを作成し、貴社にデザインを確認頂く。
- NPOせいぼがドリップパックに添付し、商品化。
- 貴社に発送し、ご利用を頂く。

(団体、企業様の性質によっては、一部の売上を貴社の事業に還元も可能)



### 提案④の狙い

- 企業、団体様の企業理念を体現しつつ、社会貢献型の商品を作製する
- 日本とマラウイというローカル、グローバルを繋げる(支援する)商品とする
- ノベルティグッズとして、顧客に対する話題性を創出する

### その他提携事例

- 北海道コカ・コーラボトリング株式会社: 自社の商品とのコラボ販売。
- BlueYonder Japan: 全取引先への「エシカルギフト」として利用。
- ヨコハマ機工株式会社: 全国の取引先に対して、お中元、御歳暮でのご利用。
- 株式会社インフォコム: ノベルティグッズとしての利用。

#### 【提携学校数】

- ・サレジオ学院中学高等学校
- ・静岡雙葉中学高等学校
- ・静岡サレジオ中学高等学校
- ・日向学院中学高等学校
- ・宮崎学園中学高等学校
- ・桜の聖母女学院高等学校
- ・長野清泉女学院中学・高等学校
- ・光塩女子学院中等科・高等科
- ・サレジアン国際学園中学校高等学校
- ・聖ドミニコ学園中学高等学校
- ・横浜雙葉中学・高等学校
- ・カリタス女子中学高等学校
- ・晃華学園中学校高等学校
- ・聖ウルスラ学院英智中学高等学校
- ・純心中学校・純心女子高等学校
- ・淳心学院中学校・高等学校
- ・聖園女学院中学校・高等学校
- ・ノートルダム女学院高等学校
- ・不二聖心高等学校
- ・光が丘女子高等学校
- ・AICJ中学・高等学校
- ・浜松開誠館中学校・高等学校
- ・鹿児島高等学校
- ・尚綱中学高等学校



#### 【大学との連携】

- ・上智大学 ・白百合女子大学 ・新潟大学 ・立教大学 ・南山大学 ・東京外国語大学
- ・筑波大学 ・津田塾大学 ・同志社大学 ・神奈川大学 ・長崎国際大学

## 団体概要

特定非営利活動法人聖母(NPO法人せいぼ)

### 【沿革】

- ・2015年1月: 団体設立
- ・2018年4月: 寄付型コーヒー販売ブランド Warm Hearts Coffee Clubを開始。
- ・2020年8月: 学校での探究学習、企業でのSDGs対策としての提供開始。
- ・2022年12月: 日本財団後援、公益財団法人社会貢献推進財団より、社会貢献賞を受賞。
- ・2024年3月: 一般社団法人ソーシャルプロダクツ普及推進協会2023年度ソーシャルプロダクツアワード受賞

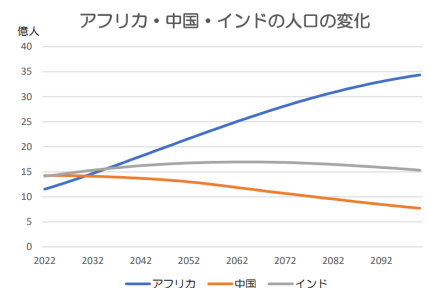
### 【代表者/所在地、連絡先】

- ・代表理事 山田 真人
- ・東京都北区赤羽西6-4-12 ・090-3426-0734 / [makoto.yamada@seibojapan.or.jp](mailto:makoto.yamada@seibojapan.or.jp)

## アフリカの将来像

MALAWI EDUCATION STATISTICS REPORT 2022によれば、特にマラウイは共同体の大人の給食支援への協力体制が多く、持続可能性が現地で高い国となっています。また、IT人材の育成に対して日本はJICAを通してIBM社などから技術者を送り、アフリカではJICA派遣率が最も高い国となっています。

SDGsの「食」や「貧困」に関わるテーマは、他の目標と比べて長期的な視野が必要になり、取り組みが直接的にビジネスとの繋がりが見えづらい点がございます。一方で、その人的資本の育成に対して視野を持った会社は、逆に少なく重要になってきます。



### 【代表者経歴】 山田 真人

- ・2015年 上智大学文学部英文学科卒
- ・2017年 上智大学神学部神学科卒
- ・2017年 英国通信事業者Mobell入社 インバウンド営業担当
- NPO法人せいぼの活動開始 理事長
- ・2018年 寄付型コーヒーサイトWarm Hearts Coffee Club立ち上げ
- ・2020年 探究学習として学校法人とマラウイ支援を展開、  
ソーシャルビジネスコースを、高校生に提供開始
- ・2022年 社会貢献支援財団より、社会貢献賞を受賞
- ・2024年 ソーシャルプロダクツ普及推進委員会、ソーシャルプロダクツアワードを受賞

